

令和7年度／

淡路島のかいぼりの取組



Vol.01

交流・協働型

池底の土砂を川に流す通常のかいぼり。
農業者と漁業者や企業などが協力して行う。

農地還元型

池底の土砂を農地等に還元するかいぼり。
通常のかいぼりが難しいため池にも適する。

長瀬池／淡路市遠田

R7.9.20

『Let'sかいぼり！島外の小学生に学びと体験を。』

島外の小学生の親子20組を対象に、ため池とかいぼりの大切さを広く知ってもらおうと、コープこうべと協力して、「Let'sかいぼり体験 in 淡路島」を開催しました。

パルシェ香りの館では、学習会「かいぼりって？」「海への効果」や「ちりめんモンスター探し」、長瀬池では、かいぼりの作業体験や、イシガメやフナなど生き物観察をしてもらいました。

参加者

長瀬池主／消防団／コープこうべ／兵庫県漁連／パソナ／洲本実業高校 ほか（65名）



レーキで泥を送り出す、初体験の協働作業



学習会の様子



スッポンやカニ、ウナギも



集合写真



豊かな海に育つ、様々な稚魚さがし

七尋池／淡路市久留麻

R7.10.23・24

『里海交流の原点！広がる輪で、今年もかいぼり。』

農業者や漁業者らが会員となる「淡路東浦ため池・里海保全協議会」が、ため池保全と里海再生に向けて今年もかいぼりを実施しました。地引き網で生き物を捕獲した後、重機を使って埋没した底樋を探し当て、参加者が水と池底の泥を攪拌。底樋から濃い泥水を放出して池をきれいしました。多様な参加者が交流しつつ、天候にも恵まれ、心地よい二日間となりました。

参加者

七尋池池主／消防団／森漁協／仮屋漁協／パソナ／淡路景観園芸学校 ほか（77名）



のぼりが見守る、放水と攪拌の協働作業



参加者そろってお弁当



探し当てた底樋



集合写真



漁協の皆さんが地引き網で魚を捕獲

川池／淡路市江井

R7.10.25

『一宮町漁協企画！栄養をギュッと海へ田んぼへ。』

ため池のメンテナンスに合わせて近海へ栄養を届けようと、一宮町漁協が中心となって企画。フナなどを別の池へ移したのち、消防団が三方向から放水し、参加者がジョレンなどで池底を攪拌。濃い泥水を川に流すとともに、一部はストックして乾燥させ、後日農地や海へ直接散布しました。なお、休憩時間には、新米と未利用魚を使った“おにぎらず”がふるまわれました。

参加者

大石池水利組合／消防団／一宮町漁協／JA淡路日の出／淡路高校 ほか（110名）



ポンプで吸い上げた泥を一時貯留



朝からおにぎらずを準備



乾燥後、海に投入



集合写真



船も使った浮草の除去や泥のかき出し

馬淵池／淡路市釜口

R7.12.12

『バキュームカーとかいぼり！藍畑に栄養を運ぶ。』

下流に別のため池があるため、これまで泥を流すことが出来なかった馬淵池について、バキュームカーで泥を吸い上げ、肥料として活用する農地還元型「かいぼり」を実施しました。80cm以上溜まった泥をほぐして吸引し、約200m離れた藍畑まで運搬・貯留。また、藍畑分だけでは取り切れない泥は、河口付近の川へ放泥し、海への栄養供給につなげました。

参加者

AWAJI藍LAND project／二ノ井出田主／消防団／パソナ ほか（17名）



バキュームカーによる乾燥場への投入・ストック



乾燥後、畑に散布



河口近くの川への放泥



池底の樋周りの泥の吸い上げ



池の水による泥のほぐし



池底の土砂を川に流す通常のかいぼり。
農業者と漁業者や企業などが協力して行う。

池底の土砂を農地等に還元するかいぼり。
通常のかいぼりが難しいため池にも適する。

川池 ／ 洲本市安乎町北谷

R7.11.8

『水源は工夫でカバー！続けて守る、川池かいぼり。』

川池では、田主代表が昨年度から他の池のかいぼりを見学するなど準備を進め、実施に至りました。放水用の水は、約400m上流の蓮池から引いた水を途中でせき止めて確保。
川池は毎年落水しているため水みちができており、参加者は並んでその幅を広げるように作業をしました。底樋の詰まりも放水の勢いで解消。今後も適正管理が続くことを期待します。

参加者

目釜池田主／消防団／町内会／淡路信用金庫／兵庫県土連 ほか（28名）



水みちに参加者が列をなして泥流し作業



上流からの水をせき止め



底樋から川に泥を排出



集合写真



底樋のつまりを水压で解消

笹池 ／ 南あわじ市伊加利

R7.12.26

『かいぼりで底樋探し！採択に強い調査設計へ。』

改修に向け調査設計を進める笹池で、泥に埋まって見えなくなっていた底樋の位置や高さを「かいぼりで探し」ました。ベテランの田主に大まかな位置を聞き、放水しながらモバイルポンプで泥を吸い出しつつ手探りで進め、底樋の入り口を発見。作業後すぐに測量が行われました。この取組は調査設計中のため池では初めてで、他地域への応用も期待されます。

参加者

山本地区水利組合／消防団 ほか（21名）



泥を吸い上げつつ進める、底樋の手探り探索



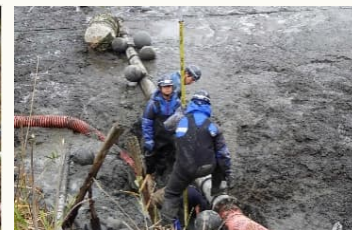
水路詰まり防止のロープ



かいぼり後の水路掃除



田主が示す位置への放水



底樋の高さを測量

大ばね池 ／ 洲本市上内膳

R7.11.30

『2年に一度！これからも続く、適正管理とかいぼり。』

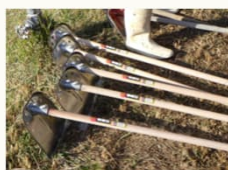
大ばね池では、隣接する能楽池と交互に2年に一度、かいぼりを行っています。
日ごろの丁寧な管理により底樋もきれいで、まずは隣の池からサイフォンで水を吸い出し、高低差を活かした勢いのある水で泥を溶かして底樋へ流しました。能楽田主は、自ら龍谷大学に声をかけたり、ジョレンなどの道具を新調したりと、今後のかいぼり継続にも意欲的です。

参加者

能楽田主／龍谷大学／姫路商業高校 ほか（25名）



集合写真



新調したジョレン



底樋前の泥かき出し



かいぼりの成果（左：開始直後 右：終了後）



夫婦池 ／ 洲本市五色町鮎原三野畑

R8.1.31

『重ね池は上流から！池内の点検や技術の伝承も。』

3つの重ね池の最上流「夫婦池」を、平成16年災からの復旧以来はじめて落水し、子供たちも多く参加して、かいぼりを行いました。イシガメやフナなどを中学生らがすくい上げ、放水と泥の攪拌をしつつ泥水を下流の新池へ流しました。来年度以降、新池、瀬戸池と順に進めます。
田主の皆さんはこの機会に、堤体の点検や洗浄、樋の操作方法の引き継ぎも行いました。

参加者

音ヶ原田主とご家族／消防団／淡路信用金庫／淡路高校 ほか（35名）



かいぼり後の仕上げに、法面清掃と道具の片付け



斜樋を仕上げ洗い



攪拌による濃い泥水づくり



集合写真



生き物に見入る子どもたち